

# 不二製油グループ本社（株） 決算補足資料

2023年度（2024年3月期）

- 第4四半期 -

ページ	項目
1	表紙
2	0-1： 注記 / 為替情報
3	1-1： 2023年度 連結業績 4Q（3ヶ月）
4	1-2： 2023年度 通期連結業績
5	2-1： 主な指標
6	3-1： 2024年度 連結業績予想
7	3-2： 2024年度 連結業績予想（事業別・所在地別マトリクス）

## 0-1 : 注記 / 為替情報

### 注記情報

#### 一部子会社の決算期変更について

2022年度期末におきまして、下記のとおり子会社の決算期の変更を行いました。

INDUSTRIAL FOOD SERVICES PTY LIMITEDは12月末から3月末に、

Blommer Chocolate Manufacturing (Shanghai) Co., Ltd. (ブラマー上海) は1月末から3月末に

それぞれ変更しております。

なお、連結決算に与える影響は軽微なため、前期比などの数値の修正は行っていません。

会社名	所在国	事業セグメント	エリア区分	2022年度の決算期間	2023年度以降の決算期間
INDUSTRIAL FOOD SERVICES PTY LIMITED	豪州	業務用チョコレート	東南アジア	2022年1月～ 2023年3月(15ヵ月)	2023年4月～ 2024年3月(12ヵ月)
Blommer Chocolate Manufacturing (Shanghai) Co., Ltd. (ブラマー上海)	中国	業務用チョコレート	中国	2022年2月～ 2023年3月(14ヵ月)	2023年4月～ 2024年3月(12ヵ月)

#### ブラマーに係る2023年度第3四半期における特別損失計上及び2024年度決算期変更について

2023年度第3四半期において、業務用チョコレート事業・米州のBlommer Chocolate Company (以下ブラマー) に係るのれんの減損損失\* 64億円及び、有形固定資産の減損損失37億円の合計101億円(71百万米ドル) を特別損失に計上しました。

\* 本資料上の「のれんの減損損失」は、「連結財務諸表における資本連結手続に関する実務指針」(日本公認会計士協会 会計制度委員会報告第7号 2022年10月28日) 第32項の規定に基づき、子会社株式の減損処理に伴ってのれんを追加的に償却したものを指す。

2024年度より、ブラマーの決算期を3月末に変更します。従来は、ブラマーの2月から翌年1月の損益計算書を連結しておりましたが、2024年度からは、ブラマーの4月から翌年3月の損益計算書を連結します。

### 主な為替レート

・P/L : 期中平均レート、B/S : 期末レート

		2022年度	2023年度	前期比		2024年度 予想前提
		期末	期末	差	増減率	
\$	P/L	135.47	144.62	+9.15	+6.8%	145.00
	B/S	133.53	151.41	+17.88	+13.4%	-
BRL	P/L	26.28	29.31	+3.03	+11.5%	29.50
	B/S	26.29	30.31	+4.02	+15.3%	-
€	P/L	140.97	156.80	+15.83	+11.2%	156.00
	B/S	145.72	163.24	+17.52	+12.0%	-
人民元	P/L	19.75	20.14	+0.39	+2.0%	20.00
	B/S	19.42	20.83	+1.41	+7.3%	-

・2023年度のブラマーに適用した為替レート(\$ )は、P/L 141.91、B/S 148.19

## 1-1： 2023年度 連結業績 4Q（3ヶ月）

### ● 業績概要

**売上高 1,425億円（前年同期比+18億円）、営業利益 53億円（前年同期比+32億円）**

売上高：植物性油脂事業でのフジオイルニューオリンズの固定資産譲渡による売上高の減少があったものの、業務用チョコレート事業での原材料価格上昇に伴う販売価格の上昇や為替円安により増収。  
 営業利益：植物性油脂事業の米州、東南アジアでの採算性の改善や業務用チョコレート事業の米国での一過性費用の減少、ブラジルでの販売数量の増加により増益。

（単位：億円）

	FY2022 4Q実績	FY2023 4Q実績	前年同期比 増減額	増減要因(前年同期比)	
売上高	植物性油脂	498	457	▲41	フジオイルニューオリンズの固定資産譲渡による売上高の減少により減収。
	業務用チョコレート	611	667	+56	原材料価格上昇に伴う販売価格の上昇、ブラジルでの販売数量の伸長、為替円安により増収。
	乳化・発酵素材	214	220	+6	日本での販売数量の増加や為替円安により増収。
	大豆加工素材	85	83	▲3	日本での販売数量の減少により減収。
	合計	1,407	1,425	+18	
営業利益	植物性油脂	18	37	+19	米州、東南アジアでの採算性の改善及び、フジオイルニューオリンズの固定資産譲渡による前年同期(営業損失)からの改善により増益。
	業務用チョコレート	9	21	+12	米国での販売数量の減少は継続するも米国での一過性費用の減少やブラジルでの販売数量の増加により増益。
	乳化・発酵素材	6	8	+2	日本でのクリーム等の販売数量の増加及び、中国の採算性の改善により増益。
	大豆加工素材	▲1	▲2	▲2	欧州新工場の減価償却費の増加により減益。
	グループ管理費用等	▲10	▲10	▲1	
	合計	22	53	+32	
営業利益率	1.5%	3.7%	+2.2pt		
経常利益	13	52	+38		
親会社株主に帰属する四半期純利益	11	16	+5	業務用チョコレート事業のブラマーのシカゴ工場閉鎖に伴う費用が発生した一方、営業利益の増加により四半期純利益は増益。	

\* 上記の連結業績は億円未満を四捨五入した数値を記載しております。

## 1-2： 2023年度 通期連結業績

### ●業績概要

**売上高 5,641億円（前期比+67億円）、営業利益 182億円（前期比+73億円）**

売上高：植物性油脂事業での主原料であるパーム油価格の安定に伴う販売価格の低下や、フジオイルニューオリンズの固定資産譲渡による売上高の減少があったものの、業務用チョコレート事業での原材料価格上昇に伴う販売価格の上昇や為替円安により増収。  
 営業利益：業務用チョコレート事業の米国における菓子市場の需要停滞に伴う販売数量減少や固定費等の増加があったものの、植物性油脂事業での日本、米州、欧州での採算性の改善等により増益。

(単位：億円)

		FY2022 通期	FY2023 通期	前期比 増減額	増減要因(前期比)
売上高	植物性油脂	2,034	1,854	▲181	主原料であるパーム油価格の安定に伴う販売価格の低下やフジオイルニューオリンズの固定資産譲渡による売上高の減少により減収。
	業務用チョコレート	2,285	2,534	+249	原材料価格の上昇に伴う販売価格の上昇や、ブラジルや欧州での販売数量増加、為替円安の影響により増収。
	乳化・発酵素材	912	899	▲13	東南アジア、中国での販売数量の減少や原材料価格の下落に伴う販売価格の下落により減収。
	大豆加工素材	343	355	+12	円安による原材料価格の上昇に伴う販売価格の上昇により増収。
	合計	5,574	5,641	+67	
営業利益	植物性油脂	70	154	+84	日本、米州、欧州での原材料価格の安定に伴う採算性の改善及び、フジオイルニューオリンズの固定資産譲渡による前期(営業損失)からの改善により増益。
	業務用チョコレート	50	18	▲31	ブラジル、欧州では販売数量が増加した一方、米国における菓子市場の需要低迷に伴う販売数量の減少や原材料価格高騰に伴う採算性の悪化、固定費等の増加により減益。
	乳化・発酵素材	15	38	+23	日本でのクリーム等の販売数量の増加及び、中国の採算性の改善により増益。
	大豆加工素材	13	10	▲2	欧州新工場による減価償却費の増加により減益。
	グループ管理費用等	▲38	▲39	▲1	
合計	109	182	+73		
営業利益率		2.0%	3.2%	+1.3pt	
経常利益		97	168	+71	
親会社株主に帰属する当期純利益		61	65	+4	業務用チョコレート事業でのプラマーに係る特別損失があったものの、植物性油脂事業を中心に収益性の改善が進んだことに加え、植物性油脂事業でのフジオイルニューオリンズの固定資産譲渡による特別利益により増益。

\*上記の連結業績は億円未満を四捨五入した数値を記載しております。

## 2-1:主な指標

大項目	項目	単位	備考	2021	2022	2023(累計実績)				2024 予想
						1Q	2Q	3Q	4Q	
PL項目	営業利益	億円		150	109	36	88	129	182	200
	営業利益成長率	%		▲16.2%	▲27.1%	+51.0%	+73.7%	+47.0%	+66.5%	+9.8%
	EBITDA	億円		324	312	86	189	347	453	-
	設備投資	億円	有形固定資産の設備投資	173	215	36	70	111	151	-
	減価償却	億円	有形固定資産の減価償却費	127	146	36	72	110	149	-
	ROA	%	経常利益÷総資産	3.7%	2.2%	2.7%	3.4%	3.3%	3.6%	3.4%
	ROE	%	売上高純利益率×総資産回転率×財務レバレッジ	6.6%	3.1%	17.0%	11.4%	3.1%	3.0%	4.4%
	売上高純利益率	%	当期純利益÷売上高	2.7%	1.1%	6.9%	4.6%	1.2%	1.2%	1.7%
	総資産回転率	回	売上高÷総資産	1.12	1.26	1.09	1.12	1.18	1.20	1.27
	財務レバレッジ	倍	総資産÷自己資本	2.2	2.3	2.2	2.2	2.2	2.0	2.1
	ROIC	%	営業利益×(1-法人税率)÷(有利子負債+自己資本)	3.1%	2.0%	2.5%	3.0%	3.2%	3.5%	3.8%
BS項目	総資産	億円		4,166	4,688	4,961	5,034	4,830	4,702	4,700
	有利子負債	億円		1,488	1,684	1,752	1,691	1,564	1,303	1,385
	NET有利子負債	億円		1,328	1,494	1,355	1,409	1,291	1,028	1,235
	NET運転資本	億円		805	819	1,173	1,235	1,197	899	-
	自己資本比率	%		44.7%	43.3%	45.2%	46.2%	46.0%	49.4%	48.7%
	負債比率	%		121.9%	127.1%	116.3%	111.6%	112.2%	97.3%	95.8%
	のれん(広義)	億円	のれん(広義)とは、のれんに加え、商標権、その他無形固定資産等を含んだもの	499	552	578	584	525	517	-
	のれん償却額	億円		22	26	7	13	21	26	-
	のれん(広義)純資産比率	%		26%	26%	25%	24%	22%	21%	-
	D/Eレシオ	倍	有利子負債÷自己資本	0.80	0.83	0.78	0.73	0.70	0.56	0.61
Net D/Eレシオ	倍	Net有利子負債(有利子負債-現預金)÷株主資本	0.73	0.80	0.70	0.71	0.69	0.54	-	
CF項目	営業キャッシュフロー	億円		35	76	▲21	▲16	195	482	310
	投資キャッシュフロー	億円		▲188	▲165	198	164	119	88	▲300
	フリーキャッシュフロー	億円		▲153	▲89	177	148	314	570	10
	財務キャッシュフロー	億円		94	98	10	▲69	▲235	▲500	▲145
	CCC	日		115	104	122	117	103	102	97

\*1 過年度の実績値を遡及修正した場合は、当資料も遡及修正後の数値に基づき再表示。

\*2 FY2023.1Q、2Q、3QのROA、ROE、ROIC：年間換算した参考値を記載。

\*3 プラマーに係るのれんの追加償却は除く。

### ※主な設備投資

年度	主な投資項目	億円
2023	日本 製造設備向け等	51
4Q累計	米州 プラマー設備投資等	37
	米州 ハラルド第2工場建設等	14
	計	151

### 株主還元

#### 株主還元方針

- ・配当性向30-40%
- ・安定かつ継続的な配当の実施

1株当たりの配当金の推移 (単位：円)

年度	中間配当	期末配当	合計	配当性向
2016	22	22	44	31.2%
2017	23	25	48	30.0%
2018	25	25	50	37.1%
2019	27	29	56	29.4%
2020	26	26	52	40.6%
2021	26	26	52	38.9%
2022	26	26	52	73.0%
2023 予想	26	26	52	68.5%
2024 予想	26	26	52	44.7%

### 3-1： 2024年度 連結業績予想

#### ●業績概要

#### 売上高 6,000億円（前期比+359億円）、営業利益 200億円（前年同期比+18億円）

売上高：ブラマーのシカゴ工場閉鎖による販売数量の減少はあるものの、カカオなどの原材料価格上昇や固定費増加に対応した販売価格の適正化、乳化・発酵素材事業の拡販などにより増収を計画。  
 営業利益：植物性油脂事業で原材料価格安定に伴う販売価格の適正化により減益を見込むものの、業務用チョコレート事業のブラマーでの改善を主要因に増益を計画。

(単位：億円)

	FY2023 通期	FY2024 通期	前期比 増減額	増減要因(前期比)	
売上高	植物性油脂	1,854	1,874	+20	原材料価格の安定的な推移を見込むものの、固定費増加に伴う販売価格の上昇などにより増収を計画。
	業務用チョコレート	2,534	2,805	+271	ブラマーシカゴ工場閉鎖による販売数量の減少はあるものの、原材料価格の上昇に伴う販売価格の上昇により増収を計画。
	乳化・発酵素材	899	950	+51	中国での拡販を主因に増収を計画。
	大豆加工素材	355	371	+16	日本での大豆たん白素材の拡販等により増収を計画。
	合計	5,641	6,000	+359	
営業利益	植物性油脂	154	123	▲31	原材料価格安定に伴う販売価格の適正化により減益を計画。
	業務用チョコレート	18	74	+56	ブラマーの固定費の減少を主因に増益を計画。
	乳化・発酵素材	38	35	▲3	東南アジア、中国での改善を見込むものの、日本での減益を計画。
	大豆加工素材	10	14	+3	日本での拡販により増益を計画。
	グループ管理費用等	▲39	▲46	▲7	人件費やグループ共通の固定費が増加。
合計	182	200	+18		
営業利益率	3.2%	3.3%	+0.1pt		
経常利益	168	160	▲8	支払利息等の増加により減益を計画。	
親会社株主に帰属する当期純利益	65	100	+35	前年度の一過性要因の剥落に加え、営業利益伸長により増益を計画。	

\*上記の連結業績は億円未満を四捨五入した数値を記載しております。

\*2024年度より、ブラマーの決算期を3月末に変更します。従来は、ブラマーの2月から翌年1月の損益計算書を連結しておりましたが、2024年度からは、ブラマーの4月から翌年3月の損益計算書を連結します。

### 3-2 2024年度 連結業績予想（事業別・所在地別マトリクス）

売上高

（単位：百万円）

	年度	日本		米州		東南アジア		中国		欧州		連結計	
			前期比		前期比		前期比		前期比		前期比		前期比
植物性油脂	2024 予想	59,000	+1,987	60,900	▲2,114	26,000	▲485	3,600	+281	37,900	+2,380	187,400	+2,049
	2023 実績	57,012	+579	63,014	▲16,203	26,485	▲4,372	3,318	▲56	35,519	+1,954	185,350	▲18,097
	2022 実績	56,432	-	79,217	-	30,858	-	3,374	-	33,564	-	203,448	-
業務用チョコレート	2024 予想	49,400	+3,093	185,000	+14,824	26,600	+7,025	9,400	+1,523	10,100	+624	280,500	+27,091
	2023 実績	46,306	+4,057	170,175	+16,851	19,574	+1,406	7,876	+409	9,475	+2,171	253,408	+24,895
	2022 実績	42,248	-	153,324	-	18,168	-	7,467	-	7,304	-	228,513	-
乳化・発酵素材	2024 予想	59,700	+682	-	-	14,900	+460	20,400	+4,001	-	-	95,000	+5,144
	2023 実績	59,017	+1,319	-	-	14,439	▲1,632	16,398	▲997	-	-	89,855	▲1,309
	2022 実績	57,697	-	-	-	16,071	-	17,395	-	-	-	91,164	-
大豆加工素材	2024 予想	36,000	+1,298	-	-	-	-	900	+129	200	+200	37,100	+1,627
	2023 実績	34,701	+1,452	-	-	-	-	770	▲265	0	+0	35,472	+1,188
	2022 実績	33,248	-	-	-	-	-	1,035	-	-	-	34,284	-
売上高計	2024 予想	204,100	+7,062	245,900	+12,709	67,500	+7,000	34,300	+5,936	48,200	+3,204	600,000	+35,912
	2023 実績	197,037	+7,409	233,190	+648	60,499	▲4,598	28,363	▲909	44,995	+4,126	564,087	+6,676
	2022 実績	189,627	-	232,542	-	65,097	-	29,273	-	40,869	-	557,410	-

上記売上高は外部顧客への売上高を記載しています。

営業利益

	年度	日本		米州		東南アジア		中国		欧州		連結調整		グループ管理費用		連結計	
			前期比		前期比		前期比		前期比		前期比		前期比		前期比		前期比
植物性油脂	2024 予想	4,907	▲919	2,824	▲1,482	2,526	+377	▲3	▲8	2,021	▲1,060	27	▲46	-	-	12,302	▲3,138
	2023 実績	5,825	+1,875	4,306	+5,244	2,148	▲811	4	+192	3,081	+1,698	73	+218	-	-	15,439	+8,418
	2022 実績	3,950	-	▲938	-	2,959	-	▲187	-	1,383	-	▲145	-	-	-	7,021	-
業務用チョコレート	2024 予想	5,355	▲906	144	+6,808	1,512	+210	17	▲204	370	▲307	27	▲17	-	-	7,426	+5,585
	2023 実績	6,261	+632	▲6,664	▲4,639	1,301	+419	221	+182	676	+301	44	▲29	-	-	1,840	▲3,132
	2022 実績	5,629	-	▲2,025	-	882	-	38	-	375	-	73	-	-	-	4,973	-
乳化・発酵素材	2024 予想	2,808	▲723	-	-	30	+337	658	+84	-	-	32	+37	-	-	3,528	▲266
	2023 実績	3,531	+1,368	-	-	▲306	+125	574	+760	-	-	▲5	+49	-	-	3,793	+2,302
	2022 実績	2,163	-	-	-	▲432	-	▲185	-	-	-	▲54	-	-	-	1,490	-
大豆加工素材	2024 予想	1,612	+56	-	-	-	-	386	+110	▲676	+209	38	▲56	-	-	1,359	+319
	2023 実績	1,555	+209	-	-	-	-	275	▲9	▲884	▲508	94	+71	-	-	1,040	▲237
	2022 実績	1,346	-	-	-	-	-	284	-	▲376	-	22	-	-	-	1,277	-
連結調整	2024 予想	-	▲127	-	+13	-	▲22	-	+6	-	▲57	-	+177	-	-	-	▲10
	2023 実績	127	▲30	▲13	▲5	22	+75	▲6	▲23	57	+190	▲177	▲166	-	-	10	+40
	2022 実績	158	-	▲8	-	▲52	-	16	-	▲133	-	▲10	-	-	-	▲30	-
グループ管理費用	2024 予想	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	▲4,615	▲704	▲4,615	▲704
	2023 実績	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	▲3,910	▲118	▲3,910	▲118
	2022 実績	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	▲3,792	-	▲3,792	-
営業利益計	2024 予想	14,681	▲2,620	2,968	+5,339	4,068	+901	1,059	▲10	1,715	▲1,215	124	+95	▲4,615	▲704	20,000	+1,787
	2023 実績	17,301	+4,053	▲2,371	+600	3,166	▲190	1,069	+1,102	2,930	+1,682	28	+143	▲3,910	▲118	18,213	+7,273
	2022 実績	13,247	-	▲2,972	-	3,356	-	▲33	-	1,248	-	▲114	-	▲3,792	-	10,940	-

不二製油グループ本社（株） IR参考資料

2023年度 (2024年3月期)

- 第4四半期 -

ページ	項目
8	表紙
9	FY2023 4Q Pickup : 各エリアのマーケットの状況と販売動向
10	IR補足① : 主要製品群の販売数量推移 (前年同期比)
11	IR補足② : 主要原料チャート (2024年4月末まで)
12	IR補足③ : 主なトピックス、ピックアップ

FY2023 4Q Pickup : 各エリアのマーケットの状況と販売動向

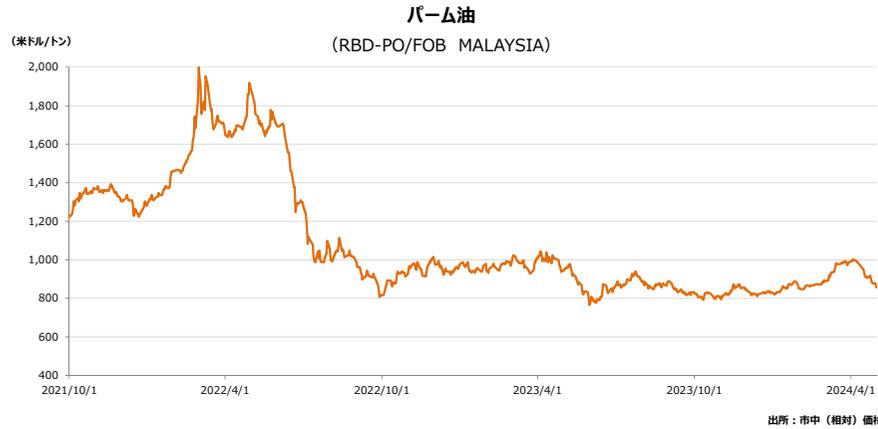
エリア	4Q（2024年1-3月）マーケット状況と販売動向
日本	<b>業務用チョコレート</b> ・土産、冷蔵、コンビニエンスストア向けの販売が堅調。
	<b>乳化・発酵素材</b> ・コンビニエンスストア向けの洋菓子や外食チェーン向けに、クリームの販売が堅調に推移。
	<b>大豆加工素材</b> ・大豆たん白素材のうち、粉末状大豆たん白は低採算品の販売数量が減少、粒状大豆たん白は中食向けが回復。 ・大豆たん白食品は、宅配向けの販売数量の減少が続く。
米国	<b>植物性油脂</b> ・チョコレート用油脂は、流通菓子向けの新規需要獲得もあり、販売が伸長。
	<b>業務用チョコレート(4Q:2023年11月-2024年1月)</b> ・インフレにより、チョコレート菓子市場の消費の冷え込みが継続。
ブラジル	<b>業務用チョコレート</b> ・2023年4月稼働のハラルド第2工場も寄与し、イースター向けの販売数量が前年同期比で増加。
東南アジア	<b>業務用チョコレート</b> ・インドネシアではバレンタイン等のイベント向けの販売が前年を下回るも、豪州では製パン向けの販売が堅調。
中国	<b>乳化・発酵素材</b> ・景況感悪化の影響があるが、新規顧客への拡販により徐々に回復傾向。
欧州	<b>業務用チョコレート</b> ・ギフト向けの需要が堅調に推移。

IR補足①：主要製品群の販売数量推移（前年同期比）

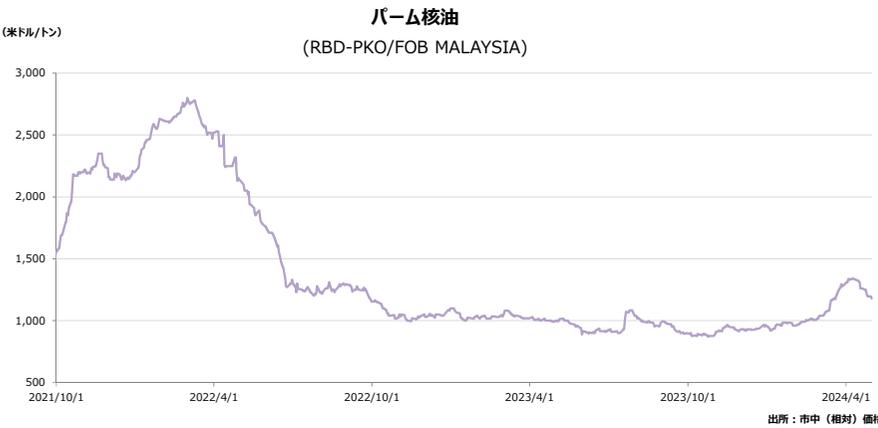
セグメント	エリア	製品群	2021年度 実績							2022年度 実績							2023年度 実績							2023年度 4Qポイント
			1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	Total	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	Total	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	Total	
植物性油脂	日本	チョコレート用油脂	96%	102%	99%	102%	98%	100%	100%	111%	106%	108%	91%	98%	94%	100%	92%	91%	91%	102%	107%	104%	98%	流通菓子向けの販売が回復。
	米州		89%	112%	99%	100%	102%	101%	100%	113%	94%	103%	100%	77%	87%	96%	82%	91%	86%	116%	126%	121%	102%	流通菓子向けの販売数量が増加。
	東南アジア		93%	98%	95%	96%	103%	99%	97%	107%	105%	106%	84%	88%	86%	95%	91%	87%	89%	102%	109%	105%	97%	流通菓子向けの減少が一巡し、前年同期比では増加。
	中国		72%	77%	75%	54%	63%	57%	66%	-*3	-*3	-*3	-*3	-*3	-*3	-*3	-*3	-*3	-*3	-*3	-*3	-*3	-*3	
	欧州		180%	153%	164%	135%	104%	118%	137%	109%	70%	88%	69%	80%	75%	81%	84%	124%	102%	122%	111%	116%	109%	流通菓子向けの販売が堅調。
	合計		101%	110%	106%	102%	101%	102%	103%	108%	93%	100%	86%	85%	85%	92%	88%	96%	92%	108%	114%	111%	101%	
業務用チョコレート	日本	チョコレート (カカオ製品含む)	114%	106%	110%	104%	97%	101%	105%	98%	96%	97%	93%	95%	94%	96%	97%	101%	99%	101%	101%	101%	100%	土産、冷菓、コンビニエンスストア向けの販売が堅調。
	米州(ブラジル)		218%	123%	147%	102%	121%	111%	123%	112%	105%	108%	100%	102%	101%	104%	118%	110%	113%	109%	116%	113%	113%	イースター向けの販売が好調。
	東南アジア		117%	110%	113%	106%	106%	106%	109%	105%	109%	107%	103%	112%	108%	107%	107%	109%	108%	110%	94%	102%	105%	バレンタイン等のイベント向けの販売が前年度を下回り、販売数量が減少。
	中国		115%	83%	95%	106%	77%	93%	94%	77%	103%	91%	87%	110%	97%	94%	112%	76%	89%	98%	141%	115%	101%	スポット案件獲得により販売数量が増加。
	欧州		152%	125%	137%	152%	129%	139%	138%	120%	129%	125%	114%	111%	112%	118%	119%	106%	112%	107%	114%	111%	111%	ギフト向けの販売が好調。
	合計(ブラマー除く)		133%	112%	120%	106%	108%	107%	113%	104%	105%	104%	98%	103%	100%	102%	108%	104%	106%	106%	108%	107%	106%	
	ブラマー		106%	108%	107%	96%	98%	96%	101%	95%	92%	94%	87%	94%	90%	92%	84%	89%	86%	94%	88%	91%	88%	消費の冷え込み等により減少。
合計(ブラマー含む)	116%	110%	113%	100%	103%	102%	107%	99%	98%	98%	93%	98%	96%	97%	95%	96%	96%	100%	99%	100%	98%			
乳化・発酵素材	日本	クリーム	119%	108%	113%	104%	102%	103%	108%	97%	106%	101%	104%	105%	104%	103%	108%	107%	107%	110%	108%	109%	108%	外食やコンビニエンスストア向けの販売が堅調。
		マーガリン ショートニング	102%	98%	100%	98%	91%	94%	97%	104%	106%	105%	101%	104%	103%	104%	100%	99%	99%	96%	99%	98%	99%	製パン、流通菓子向けが前年並みに推移。
	東南アジア	クリーム	157%	72%	105%	79%	124%	97%	101%	84%	134%	105%	86%	94%	90%	98%	89%	74%	81%	126%	89%	106%	93%	製パン向けの販売が減少。
	中国	マーガリン ショートニング	118%	94%	105%	121%	117%	119%	112%	124%	80%	102%	73%	83%	77%	89%	73%	118%	90%	93%	99%	96%	93%	景況感悪化により既存顧客向けは減少も、新規顧客への拡販により前年並み。
	フィリング	144%	111%	126%	123%	115%	119%	122%	88%	92%	90%	87%	87%	87%	88%	94%	94%	94%	104%	99%	101%	98%	景況感悪化により既存顧客向けは減少も、新規顧客への拡販により前年並み。	
大豆加工素材	日本	大豆たん白素材	106%	103%	104%	102%	102%	103%	96%	98%	97%	95%	92%	93%	95%	100%	97%	98%	104%	98%	101%	100%	粉末状大豆たん白は低採算品の販売数量が減少、粒状大豆たん白は中食向けが回復。	
		大豆たん白食品	107%	96%	102%	100%	99%	99%	100%	105%	96%	101%	95%	94%	95%	98%	97%	91%	94%	92%	87%	90%	92%	宅配、給食向けの販売が減少。
		機能剤	103%	99%	101%	99%	99%	99%	100%	87%	110%	97%	108%	120%	114%	104%	84%	86%	85%	95%	79%	86%	86%	前年からの反動減。

\*1:製品区分の見直し等により、過年度の実績値を遡及修正した場合は、当資料も遡及修正後の数値に基づき記載しております。  
 \*2:2022年度第4四半期に決算期変更した会社については、前年同月比で比較しております。  
 \*3:チョコレート用油脂の中国について、数量僅少のため非開示。

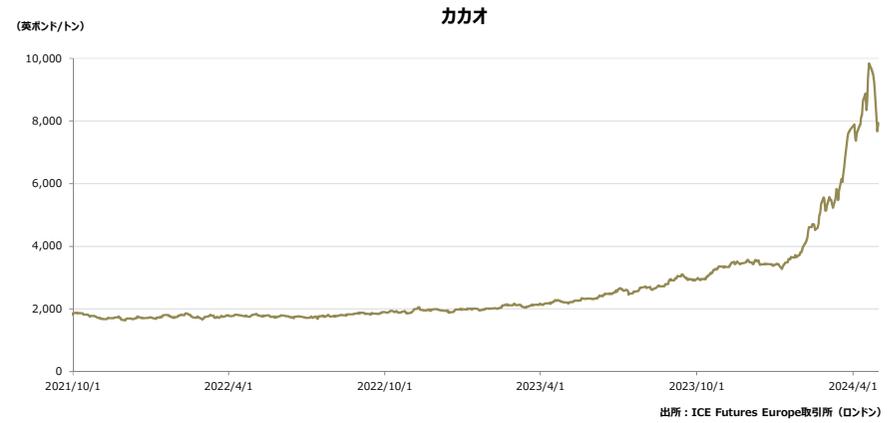
IR補足②：主要原料チャート（2024年4月末まで）



【市況】  
3月は価格が上昇するも、他油脂比較でのパーム油の割高感、中国やインドの軟調な需要により、4月に入り価格は下落。  
強材料：中東情勢や原油価格の動向。インドネシアでのバイオ燃料用途での使用量増加。  
弱材料：パーム油価格競争力の低迷。中国の需要低迷懸念。



【市況】  
ヤシ油とパーム核油の価格差からパーム核油へ需要がシフトし価格が上昇。  
強材料：フィリピン降雨不足による生産量への影響。  
弱材料：マレーシアパーム核油の生産好調。ヤシ油との価格差からパーム核油へ需要がシフト。



【市況】  
カカオの病害等による供給不安が広がり価格上昇の中で、実需の買いも伴い、急騰。  
強材料：アイボリーコーストやガーナの着荷数量減少。天候要因による減産懸念。  
弱材料：カカオ価格高騰によるチョコレート需要減退の可能性。相場の過熱感。



【市況】  
中国の需要停滞懸念や米国期末在庫の上方修正により、価格は下落。  
強材料：堅調な米国搾油需要。安値圏に入ったことで、買い戻しの増加。  
弱材料：米国産大豆の中国向け輸出の減少。レアル安によるブラジル産大豆の輸出価格低下。

## IR補足③：主なトピックス、ピックアップ

### ●2023年度 主なトピックス（日付は不二製油グループ本社または不二製油（株）WEBサイトでの公開日）

日付	Topics	日付	Topics
2023.4.3	「不二製油グループ憲法」ビジョンを改定	2023.10.30	統合報告書2023(中国語版)を公開
2023.4.10	連結子会社の固定資産譲渡に関する契約締結のお知らせ	2023.11.8	植物性ラーメン新ブランド「veJin」にMIRA-Dashi®およびプライムソIMITが採用
2023.4.24	トルコ・シリア地震の緊急支援について	2023.11.13	豆乳クリームバター「ソイレール」が第53回食品産業技術功労賞を受賞
2023.5.11	(株) c o t t a と共同で新ECメディア「cotta tomorrow」を立ち上げ	2023.12.22	サステナブル・オリジン 2021/2022 レポートを公開
2023.5.22	G7 広島サミットに一風堂と不二製油が共同で出展	2024.1.25	連結子会社による合併会社設立に関するお知らせ
2023.8.30	サステナビリティレポート2023を公開	2024.2.16	既存ハイブリッド社債(劣後特約付)の期限前償還及び公募ハイブリッド社債(劣後特約付)の新規発行に関するお知らせ
2023.9.6	MIRA-Dashi®C400発売開始のお知らせ	2024.3.11	「健康経営優良法人2024大規模法人部門(ホワイト500)」に認定
2023.9.7	不二製油 健康白書2023発行	2024.3.15	責任あるパーム油調達方針 進捗レポート(2023年1月~6月)
2023.9.8	植物性食品のおいしさ向上への官能評価の活用 -動物性・植物性としごつ(風)スープのおいしさの違いを明らかに-	2024.3.22	連結子会社の構造改革に関するお知らせ
2023.9.8	統合報告書2023を公開	2024.4.17	植物性素材で動物性食品特有の「満足感」を実現する技術MIRACORE®ブランドサイト 及びMIRA-Dashi®製品サイト公開のお知らせ
2023.9.29	統合報告書2023(英語版)を公開	2024.4.19	公募ハイブリッド社債(劣後特約付社債)の発行条件決定に関するお知らせ
2023.10.27	サステナビリティレポート2023(英語版、中国語版)を公開		

### ●ピックアップ

#### 責任あるパーム油調達方針 進捗レポート(2023年1月~6月)

責任あるパーム油調達方針のもと、NDPE (No Deforestation, No Peatland Development and No Exploitation) 達成に向け、活動を行っています。  
2023年1月から2023年6月までに実施したトレーサビリティ確保とサプライチェーン改善活動における進捗レポートを発行しました。



#### 「健康経営優良法人2024大規模法人部門(ホワイト500)」に認定

不二製油グループ本社および不二製油（株）は、経済産業省及び日本健康会議による健康経営優良法人制度において「健康経営優良法人2024大規模法人部門(ホワイト500)」に認定されました。不二製油グループ本社、不二製油（株）共に7年連続の認定となります。当社グループは引き続き、従業員の健康維持・推進に積極的に取り組み、今後も従業員が心身ともにイキイキと働くことで、社会とともにサステナブルに発展する企業を目指します。



#### MIRACORE®ブランドサイト及びMIRA-Dashi®製品サイト公開のお知らせ

不二製油（株）は、植物性素材で動物性食品特有の満足感を実現する技術ブランド「MIRACORE®(ミラコア)」のブランドサイト及びMIRACORE®を活用した植物性ダシ製品「MIRA-Dashi®(ミラダシ)」の製品サイトを公開しました。



MIRACORE®ブランドサイト



MIRA-Dashi®製品サイト